

森林と林業

一般社団法人日本林業協会

2016年

2月

トピックス

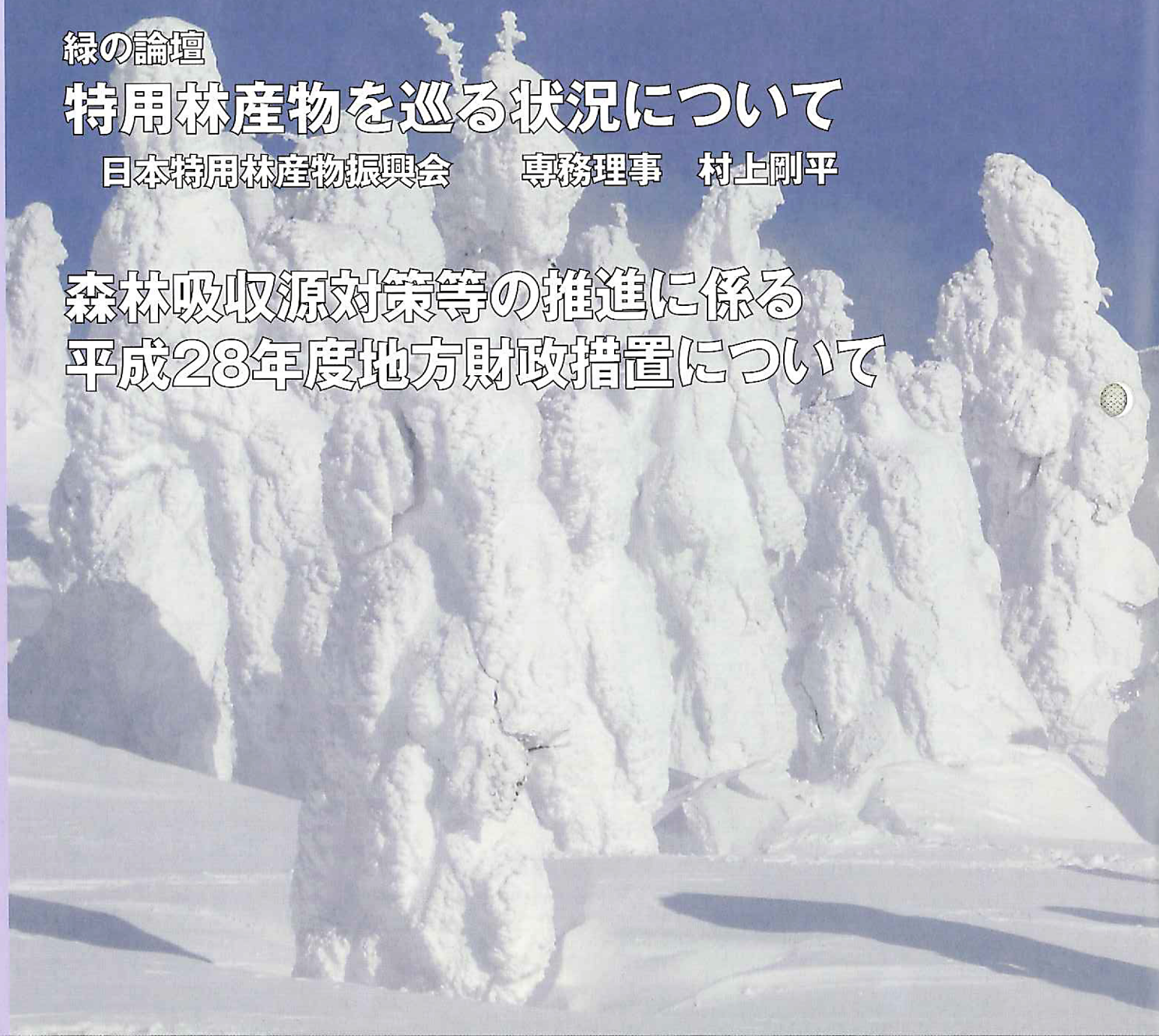
ミス日本コンテスト 2016みどりの女神に飯塚帆南さん

緑の論壇

特用林産物を巡る状況について

日本特用林産物振興会 専務理事 村上剛平

森林吸収源対策等の推進に係る 平成28年度地方財政措置について



第3回「林業復活・地域創生を推進する国民会議」

多方面にわたる国産材需要拡大方策を提言
 森林のマネジメント、国民に愛される森林づくりにも言及



議長席に並ぶ三村会長（中央）ほか役員各氏

経済・産業界が、日本の森林を資源として位置付け、林業を産業として再生し、地域創生の活力としようとして創設された「林業復活・地域創生を推進する国民会議」（主催Ⅱ（一社）日本プロジェクト産業協議会（JAPIC）・日本創生委員会、共催Ⅱ美しい森林づくり全国推進会議、（公社）国土緑化推進機構）の第3回会議が一月一九日に、東京・千代田区のホテルグランドアーク半蔵門で開催された。

国民会議の三村会長は、開会に当たり「本日は国産材利用に関する先進的な取組事例を発表いただくとともに林業復活・地域創生をテーマに設置したワーキンググループが一年を掛けて纏めた提言を報告します」と挨拶した。

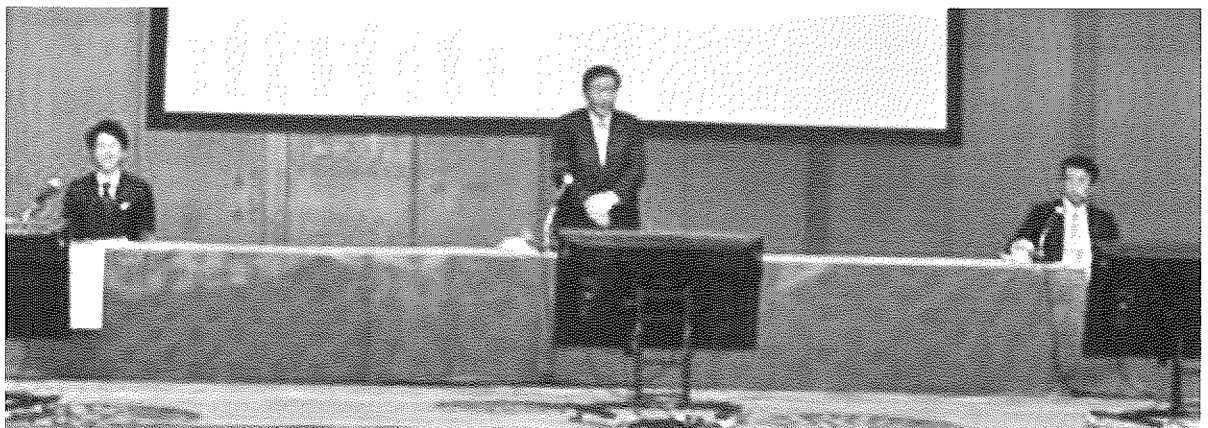
来賓には森山裕農林水産大臣が齋藤健農林水産副大臣とともに出席し、「本年は農政新時代を迎えた年であり、T P P対策を完全に実施しなければならぬ。林業については地域の森林資源を活用し、林業の成長産業化を図ることは地方創生の実現にもつながることである。木材需要の創出とこれに呼応した供給体制の整備、林業の低コスト化を一段と進めていきたい。また、森林吸収源対策を進めるとともに、木材

産業の国際競争力の強化も進めていきたい。」として林業に対する積極的な取り組み姿勢を表明した。

また、昨年自由民主党の農林部会長に就任した小泉進次郎氏は木製のタンブラーを取り出し「これは地方創生に取り組んでいるときに徳島県の神山町で買い求めたものです。当初は木のタンブラーなんて無理」と批判されながらも製品化に取り組んだ結果のもので、出来ないと思いついでいることでも「やってできないことはない」ケースがいくつかあります。国土の七割を森林が占めている国です。山は儲かる。森林はビジネスになる。そういった実例を数多く作り上げていくことが重要



木製タンブラーを掲げながら挨拶する
 小泉自民党農林部会長



来賓として出席した森山農林水産大臣（中央）と齋藤副大臣（右）及び小泉農林部会長（左）



国民会議の会場風景

だと思えます」と林業への熱い思いを語った。

全国会議では引き続き、東京藝術大学の先端芸術表現科の日比野克彦教授が基調講演を行い、地元の木材を使って、地域の人々と協働で作り上げたアートプロジェクトの事例を写真を交えて紹介し、「地域社会にとって森林・木は欠かせない素材である」と、産業としての視点とは相違した観点から木

「林業復活・地域創生を推進する国民会議」で報告された提言

1. 国産材需要の拡大

自給可能な森林蓄積の有効活用は、資源の乏しい我が国にとって不可欠な取り組みである。このため、CLT（直交集成板）など付加価値の高い製品の開発・普及と輸出の促進や、木質バイオマス発電・熱利用の拡大、法・基準認証制度の改正による公共・民間建築物等の木造・木質化の加速など、需要を創造し、森林資源を循環的に利活用する方策の具体化が急務である。

- ✓東京オリンピック・パラリンピックにおける象徴的な国産材建築物の実現と普及
- ✓CLT（直交集成板）等、付加価値の高い製品の開発・普及
- ✓プロダクト&プロセスイノベーションを加速させるための中長期的な支援
- ✓木造・木質化技術の標準化
- ✓木造・木質化を促進するためのインセンティブの導入
- ✓持続可能な木質バイオマスエネルギー活用モデルの早期確立
- ✓アーティスティック、感性志向からの国産材活用促進・社会的価値づくり
- ✓国産材加工品の輸出拡大に向けたマーケティングと販路開拓
- ✓山元と消費地をつなぐ連携モデルや山元と消費者をつなぐ6次産業化の推進
- ✓国産材需要（公共・民間建築物等）の拡大を一層加速させる法・基準認証制度の改正

2. 多様な森林マネジメントの導入

その際、留意すべきは、需要拡大に応じた伐採を、再造林放棄地の拡大に繋げてはならないということである。重要な国富である森林資源を孫子の代まで、価値を維持・向上させていくためには、将来の外部環境（気候や需要等）の変化も念頭においた、多様で柔軟性に富む実効ある森林マネジメントを推進すべきである。

- ✓地籍の早期明確化による大規模集約化の促進
- ✓将来世代における価値創造を念頭においた持続的な再造林システムの再構築
- ✓多様な森林づくりを実現する柔軟性ある補助金システムの導入
- ✓スマート林業化（IT・ロボット・機械の活用）による生産効率の改善
- ✓国際森林認証制度のさらなる促進

3. 国民に愛される森林づくり

欧州のように、森林の基本的機能とされる、生産と保全、レクリエーションとレジャー、双方のバランスをとることによって、国民に愛され、国民が誇りに思える森林や里山づくり、世代を超えた国民の意識啓発と中長期の次世代人材育成を進めることが望まれる。

- ✓木と触れ合う効用（健康志向）の見える化
- ✓レクリエーションやレジャーを通じた森林・林業への理解の推進
- ✓森林や木に親しむ次世代の人材育成
- ✓フォレストプロダクツ学（多角的視点による高等教育）の導入

の評価を指摘した。引き続き行われた木と関連した地域創生の先進事例としては、福田紀彦川崎市市長が「『埼玉モデル（川崎市と宮崎県の連携を表した命名）』による木材原産地と消費

地の連携」を、すてきなリスグループの平田潤一郎取締役が「木材の新世紀へ」と題して、同社グループが取り組んでいる日本の木造軸組工法の海外展開の状況を発表するとともに、谷一之

北海道下川町長は「森林未来都市しかもかわの取り組み」と題して地元木材を利用した市営住宅・公共施設の建築から木質バイオマスによる地域冷暖房までカスケード利用の事例を紹介した。